



沖津宮現地大祭



宗像

7月祭事暦

- 1・15日 月次祭
午前10時～ 高宮祭
第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭(1日)
午前11時～ 総社祭
浦安舞奉奏(1日)
豊栄舞奉奏(15日)
- 27日 午前9時～
第56回 中津宮七夕揮毫会
於=大島・中津宮
- 31日 午後5時～
夏越の大祓神事
大祓式 於=神門前
引き続き
夏越祭 於=本殿

五月二十七日、当大社沖津宮で現地大祭が斎行された。現地大祭は、日本海海戦で命を落とした日露将兵約四千二百名の慰霊並びに勝利に導いた先人を顕彰する為、斎行されている。我国の命運を懸けた日本海海戦は沖ノ島の北西、対馬海峡より始まった。その状況は、当時沖ノ島にいた当大社職員も鮮明に日誌に記録している。

昨年の現地大祭は海上大時化となり渡島することは叶わなかった。今年も前日迄、雨が降り気を揉んでいたが、その心配を余所に当日は海上平穏となり二年振りの現地大祭となった。普段、沖ノ島への渡島は制限されているが、この日だけは特別に一般の入島を許している。しかし、参拝希望者は多数にのぼる為、例年二五〇名のみ受け入れている。

参拝者は、二十六日筑前大島に参集。当大



余滴

神の使いとして日本ではカラス、ニワトリ、サル、ヘビ、キツネ等が伝えられ、身近な存在として人間の近くにいた。吉凶を占う鳴きかたや、行動が伝承され、それを日本人は神の啓示とし畏敬の念をもって受け入れ共生してきた▼伝統的な農耕社会では、気象の変化を肌で感じ、山の残雪や、生物の生態、植物の開花や色つきを参考にし、稲作を中心とする農事に励んできた歴史がある。暦の農事欄に初音、初見、開花、植えつけ等の欄が設けてある。ヒバリ、ウグイスの鳴き始めや、あまがえる・つばめ等の初見の頃を確認する事ができるが、環境変化にともない暦通りには鳴けなくなり、品種改良やビニールハウス等での栽培により植えつけの時期も変化してきた▼動植物は、大自然の遵法に従い、その命は自然環境に委ねられる。万物の霊長である人間は、文明を起し、今ではあらゆる情報を瞬時に知る事が出来る。そして日常生活の中で異常気象、温暖化が進んでいるという情報を得ながら、現在の豊かな人間の環境を変えられず危機感が乏しい▼遠い昔、我々祖先の共生への思いは、神の使いの生き物と共に大自然の恵みと畏敬とで一体感があつたが、科学の発達で人類は栄え、一方で絶滅危惧種の問題をおこしている▼戦後、技術立国、経済大国と西歐的価値観で繁栄。そして過信してきた。困難の時、日本の「風土」に育まれた「共生・「畏敬」の伝統を感じ、感謝と祈りの精神的豊かさを進化させ繁栄してゆきたいものである。(渡)

遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

神具・装束・授与品

井筒

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



沖ノ島波止場

社中津宮にて午後六時から齋行される渡島安全祈願祭に参列し、翌日の渡島の無事を祈念した。祭典後、引率の神職から説明・諸注意を受け各自大島の宿に参籠した。

当日午前七時、大島渡船「しおかぜ」、「恵比須丸」「恵比須丸II」「アクアシャイン」に各々乗船。家族・関係者の見送

りを受け一路沖ノ島を目指した。午前九時前には全船沖ノ島に到着し、一同海中で禊を行い心身共に清めた。島の中腹に鎮まる沖津宮本殿へは、樹林の生い茂る中、四百段に及ぶ参道を進まなければならない。

午前九時三十分、沖津宮御本殿にて現地大祭齋行。ご神前には全国各地の参拝者から御神酒・奉献品がお供えされ、宮司が日本海海戦を顧みて国家・皇室の御安泰、参拝者をはじめ国民の平穏を祈る祝詞を奏上。続いて宮司以下各代表が順次に玉串を奉奠、敬虔な祈りのなか祭典は滞りなく終了した。

その後、波止場で直会を行った。当大社の氏子組織である沖・中両宮奉賛会、同翼賛会により調理された刺身、煮魚、その煮汁でいただく素麺に一同舌鼓を打ちながら、神の島でのひと時を過ごした。正午過ぎ、参拝者は各船に乗り込み沖ノ



沖津宮参道



26回 渡島安全祈願祭(大島・中津宮)

島を離島、ゆつくりと島を周回し午後二時過ぎには全船が大島に到着、参拝者はその場で解散となりそれぞれ帰路についた。

一方、沖ノ島に渡島出来な女性・子供は、現地の祭典とほぼ同時刻に大島「沖津宮遥拝所」の祭典に参列し、遙か沖ノ島に祈りを捧げた。

この沖ノ島を中心とする宗像地域が「沖ノ島と関連遺産群」として世界文化遺産の暫定リストに入り、テレビ局や新聞社など多くの報道機関が取

材する一方、信仰以上に遺跡や島への興味で参加された方もおられ、事前に説明しているにもかかわらず禁止している祭祀遺跡へカメラ片手に立ち入る方が見受けられ神職が注意する場面が何度かあった。

神社としては世界遺産に関して中立の立場を保っているとはいえ、今後信仰や尊厳の護持、文化財保護の観点からも一般参拝の方々へ参拝心得を遵守していただくと共に、憂慮すべき事態を迎えないことを願うばかりである。

夏越の大祓神事 ご案内

恒例の夏越祭が近づいて参りました。このお祭りは、大祓神事を中心に行われ、夏季に流行する悪疫を除去し、皆様方の心身の罪・穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持ちで、毎日が無事に過ごしていただくための祈りを込めた神事でございます。

本年も左記の通り齋行致しますので、皆様お誘い合わせの上御参拝下さいますようお願い申し上げます。



◆七月三十一日(日)
午後五時
大祓神事 引き続き
夏越祭齋行

平成23年度

第一回 氏子会総代総会開催

五月二十四日、今年度第一回目の氏子会総代総会が置鮎玄二郎会長以下一一五名出席の下、当大社清明殿で開催された。

まず本殿で正式参拝、その後清明殿へ移動し、中村副会長

による開会の辞により開会、神宮並皇居遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領を一同唱和し、置鮎会長、高向宮司が挨拶を行った。続いて、先の統一地方



一致で承認された。次に平成二十三年度氏子会事業計画案、予算案について事務局より説明され、こちらも全会一致にて承認された。本年度より評議員に就任された方々も多く、事務局より氏子会組織の由来についての説明がなされ、併せて氏子会費取り纏めについても御理解と御協力の依頼がなされた。

また本年第二十回の節目を迎えた氏子会研

選挙において宗像選挙区より当選された伊豆美沙子、吉武邦彦両県議会議員より挨拶を賜った。

議事は置鮎会長が議長に選出されて審議は始まり、事務局より平成二十二年度の氏子会事業報告と決算報告の後、城野監事より会計監査報告が行われ、全会



一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

一致で承認された。

修旅行は、北陸地方を中心とした行程で多数の参加が呼びかけられた。尚、正式参拝は石川県の白山咩女神社で行う。

本年度より総代・評議員に新たに御就任頂いた方々への委嘱状伝達式が行なわれ、該当者を代表して津屋崎地区の大久保一仁評議員に置鮎会長より委嘱状

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

が手渡された。

宗像大社氏子会

中村 昇副会長逝去

去る六月十七日、宗像大社

氏子会副会長 中村 昇氏(福津市内殿)が逝去された。中村氏は、平成十三年より福津市内殿より選出の評議員に就任、平成二十二年には当会

副会長に御就任頂き、当大社の護持運営に多大なる御尽力を頂いていた。故人の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

平成23年度

宗像大社氏子青年会定例総会

「みあれ祭時、陸上神幸の復活も検討」

去る六月十日、宗像大社氏子青年会(通称・宗像オガチの会)の平成二十三年度定例総会が小林栄二会長以下会員約二十名参集し開催された。

意気込みを語った。

神宮並びに皇居遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和を行い小林会長、当大社葦津禰宜より挨拶を頂戴した。又、本年度新入会員の杉埜壮氏、新入神職の神島権禰宜が紹介され、其々

次に稲田会員が議長に選出され議事は進められた。事務局より平成二十二年度活動・決算報告、並びに伊熊監事より監査報告が行われ、一同承認。次いで事務局より平成二十三年度の活動計画(案)並びに予算(案)について説明がなされ、こちらも一同承認された。

また、その他において同会も平成十七年の発会より七年目を迎え、十月三日秋季大祭高宮神奈備祭の奉仕も定着し、今後の目標として、十月一日のみあれ祭からの陸上神幸の復活も検討していく事が報告され総会は終了した。



は終了した。

宮中献上米齋田播種祭

去る五月二十二日、むなかた地区良質米生産支援協議会の宮中献上米齋田播種祭が、執り行われた。

これは、宮中新嘗祭にあたり福岡県より戦後献上米を供える習わしが続く中、県下の各地区持ち回りで当番地区が

選定されている。本年は、宗像市が当番地区となり、福岡県・宗像市・宗像農業協同組合の三者により「むなかた地



区良質米生産支援協議会」が結成され、諸儀から献上に至る迄の間、同協議会が中心となり進行される。尚、一連の諸儀式については、当大社が奉仕をする。

当日は生憎の雨模様であったが、宮中献上米齋田と選定された田中一彦氏(宗像市朝町)の耕作田には、仮設テント・祭壇等の諸準備を整え関係者参列の下、定刻午前十一時に始まった。

当大社神職より神前に播種(種蒔き)・御田植より拔穂(稲刈り)迄の間の稲作の無事、皇室の弥栄、耕作主を始め地区の五穀豊穣を祈念する祝詞が



奏上、次いで齋田の清祓が行われた。

播種の儀では、齋田水口への齋申供進、耕作主による鍬入れ、耕作主・早乙女・協議会会長始め関係者により種蒔きが行われた。

次いで関係者が玉申を神前に捧げ直会となり最後に同協議会 寺島俊基会長(宗像農協代表理事組合長・当大社責任役員)より今後の予定説明と、関係者の奮起を促す挨拶により無事締め括られた。

今後、六月に御田植祭、九月に拔穂祭が予定され次号以降に詳報させて頂く。

新嘗祭(いなめさい)

毎年十一月二十三日、宮中及び全国神社で行われる収穫祭。

宮中では、天皇陛下自ら神々に新穀を献じ、共に食せられる。豊穣を祈る二月の祈年祭(きねんさい)と対置される。

中津宮 九響出前コンサート

五月三十一日、九州交響楽団による「いきいき出前コンサート」(主催：宗像ユリックス、宗像市大島地区コミュニティ運営協議会)が中津宮で開催された。

今回特別に大島小・中学校の各校歌をプロの演奏に合わせ、島の子供達が声高々に斉唱、またと無い体験に子供達一同感激した様子で、最後は「ドレミの歌」を来場者一同で合唱し、楽しい歌声が神苑に木霊した。



このコンサートは八月二十八日に宗像ユリックスで開催される「九州交響楽団宗像公演」に先駆け、同楽団員が各地域に出向き「その場所」で「生の演奏」をお届けし、一流の演奏家による本物の音を通して「生きる喜び」や「感動する心」、「豊かな感受性」を育むことをコンセプトに実施されている。

当日は五月晴れの好天に恵まれ、多くの島民が来宮。午前十一時、九州交響楽団の演奏家四名が中津宮を正式参拝、来る宗像公演の成功が祈念され、エルガーの「愛のあいさつ」を神前に奉納、コンサートが開催された。

楽器はヴァイオリン、チェロ、



平成23年度

主基地方風俗舞保存会 総会開催

五月七日、午後六時半より当大社齋館に於いて、平成二十三年度主基地方風俗舞保存会総会が会長花田安輝氏以

下役員会員九名、当大社より高向宮司以下六名、計十五名の出席のもと開催された。

開催に先立ち、平成二十三年一月に御逝

去された当保



存会第二代会長であり顧問であった岩佐昭正氏と同年三月に起こった東日本大震災の追悼の意を込め全員で黙祷を捧げた後、井上・深田支部長より開会の辞を頂き会議へと移った。

始めに、主基地方風俗舞保存会の舞歌を出席者全員で奉唱、次に花田会長・高向宮司より御挨拶を頂いた後、平成二十二年活動報告並び決算報告と平成二十三年度活動計画並び予算報告を行い無事承認を得た。

主基地方風俗舞が昭和四年に当大社に御下賜されて以来、昭和五十二年まで地元青年団により御神前に奉納されてきた。昭和五十三年の保存会発足当時、会員数は約八十名であった。しかし、地域の高齢化、若者の流出により若手会員の獲得は進まず、現在の会員数は発足時の半分約四十名まで減少している。今回の総会では、この状況を打破しようとして、従来田島(大社所在地)地域に在住している事が入会の条件であったが、この範囲を神湊地域まで広げることにし、会員拡充に努める事に決定した。若手会員獲得による「主基地方風俗舞保存会」の活性化並びに福岡県指定無形文化財認定に向け会員一同結束を新たにしたい。

主基地方風俗舞とは

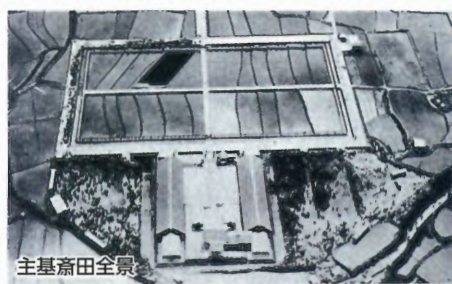
主基地方風俗舞とは天皇陛下が御即位するにあたり齋行される一世に一度の祭儀である大嘗祭にて舞われる宮中舞楽である。この舞は門外不出が原則で、大嘗祭後は一度も舞われることは無く、昭和以前の舞は消滅している。

大嘗祭では、仮設された大嘗宮で天皇陛下自ら新穀を天神地祇に奉獻し、自身も食せられる。この祭儀に先んじて新穀を奉獻する齋田の卜定(占い)が行われる。

古来より京都を中心として西方が「主基地方」、東方が「悠紀地方」とに分けられ、それぞれ齋田が

指定される。その地方の風俗歌を基に作曲舞されるのが「主基地方」「悠紀地方」風俗舞である。

当大社の主基地方風俗舞は、昭和三年の昭和天皇御即位の際の大嘗祭のものであり、その時の主基地方は、福岡県早良郡脇山村(現在の福岡市早良区脇山)に定められた。脇山村の氏神は当大社の分祀社である横山神社であったが、京都御所へ新穀を献上する当日、脇山村関係者一同、当大社へ御札詣を行っている。



主基齋田全景



昭和4年4月14日 初めて披露される主基地方風俗舞

は、この貴重な舞楽を後世に残そうと宮内省に嘆願書を提出した。前例のない嘆願であったが今回に限りということで宮内省から特別の思召しを以って御下賜頂き、現在に至る。

宗像大社奨学金 受給生作文紹介

西南学院高校1年 池浦 愛里(玄海中出身)

「宗像大社の思い出」

私は祖父母が宗像市に住んでいるので、小さい頃からよく宗像大社に訪れ、コイに餌をあげるのが好きでした。そして、私が小学校五年生の頃、宗像市の玄海東小学校へと通うことになりました。それから私は、宗像大社で行われる放生会に毎年のように友達とお参りしていました。

このように、私は宗像大社に小さい頃から、とてもお世話になっています。ですから今年は去年よりも、もっと勉強やスポーツに励み、宗像に少しでも貢献したいと思っています。去年はまだ学校生活によく馴染めず、自分が思っていたよりも勉強に励むことが出来なかったと思います。だから、今年からはこの宗像大社奨学金のありがたさにもっと感謝して、勉強やスポーツに励んでいきたいと思っています。

そして、宗像や身の周りの人など、様々な方たちの役に立てるような人になりたいと思います。本当に有難うございます。

宗像高校2年 山口 智子(日の里中出身)

「思い出」

宗像大社は家から近いこともあり、小さい頃から何度もお参りしていました。その中でも私の心の中に最も残っているのは七五三で参拝したことです。

私は5歳だったのですが、その時のことをまだ覚えていません。着物を着て下駄をはいて、化粧をしてもらい、慣れない格好で少し緊張していたのを覚えています。特に下駄が痛くて泣きそうになっていた私に気付いてくれた父が抱っこしてくれたことは、今でも鮮明に覚えています。

今思えばやはり親は子を見てくれているものだ実感します。どんな小さなことも気付いてくれ、そして助けてくれました。父に抱っこされながら、やっと着いた宗像大社、小さな私にはとても大きな場所でした。

本殿に行く途中、私は鯉に目を奪われました。私はその場から離れませんでした。すると母が餌を買ってきてくれました。私はうれしくてはしゃいで、鯉に餌をあげました。鯉が餌に群がると近くに来るのでうれしかったです。私は益々鯉に見とれてしまいました。父と母はそんな私をずっと待っていてくれました。私の気が済むまで優しく待っていてくれました。

そんな父と母に今とても感謝しています。いつも側で見守ってくれたことは、私を安心させてくれました。

今後は、私が親に何かをしてあげる番です。まだ具体的にはわかりませんが、今出来る事は日々を精一杯生きる事です。

第40回 「宗像大社短歌大会」のご案内

◆日時 平成23年11月20日(日)

- 小中高生の部… 9:30~11:30
- 一般の部…12:00~15:40

◆会場 宗像大社「清明殿」(宗像市田島2331)

◆応募方法

- 詠草…小中高生は1人1首。
一般は1人2首まで可(未発表のもの厳守)。
B4の400字詰め原稿用紙の右半分に楷書で作品(固有名詞など難読語にはふりがなを)、左半分に郵便番号・住所(マンション名も)・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を明記のこと。小中高生は学校・学年も明記のこと。
- 出詠料…1首1,000円
(定額小為替にて。小中高生は無料)。
詠草集送付のための切手(50円切手2枚)を作品と同封のこと。
- 締切日…
一般=平成23年8月31日(水)(当日消印有効)
小中高=平成23年9月7日(水)(当日消印有効)
- 送り先…〒811-4175 宗像市田久5-25-17
「宗像大社短歌大会」実行委員会事務局宛
「小」「中」「高」「一般」の別を朱書きのこと。
- お問合せ先…上記の送り先へ往復葉書で。

◆選者 小中高生の部=桜川冴子

- 一般の部=青木昭子・五所美子・桜川冴子・野田光介(50音順)
- ※講演(一般の部)=天野玲子 題目=「台湾万葉集」

◆発表 平成23年11月20日(日) 大会当日 選考結果送付希望の方は、結果送付代 (50円切手2枚)を同封して下さい。

◆賞

- 小中高生の部=宗像市長賞・宗像市教育委員会賞・宗像大社賞・毎日新聞社賞・奨励賞
- 一般の部=福岡県知事賞・福岡県教育委員会賞・宗像市長賞・宗像市教育委員会賞・毎日新聞社特別賞・宗像大社宮司賞・宗像大社氏子会賞・宗像大社賞・毎日新聞社賞・優秀賞・40周年特別賞

◆主催 「宗像大社短歌大会」実行委員会

◆共催 毎日新聞社

◆後援 福岡県・福岡県教育委員会・宗像市・宗像市教育委員会・宗像大社・宗像大社氏子会

※応募によって得られた個人情報は、本大会以外のことには利用しません。

(続)

災の寄物

257

いしいただし



日本の歴史の中で「国難」と呼ばれるのが四つある。

一つは文永・弘安の元寇、大正十二年の関東大震災、原

爆と敗戦、そして今度の東北大地震である。地震・津波・原発である。大変なことになって

いる。国史大辞典(吉川弘文館)から「日本のおもな地震被害」を抜き出してみよう。

地震の古い記録は日本書紀の天武天皇七年(六七八)、家屋倒壊多く、長さ三万

七一五年から八五〇年の間に八回M7.0以上の地震が発生している。平安時代の貞観十一年(八六九)M8.6三陸沖。城廓・倉庫・門類れ倒壊多く、津波、溺死約千。仁和元年(八八七)M8.6、京都で家屋倒壊多く、圧死多数。津波、南海道を襲い、溺死多数。永長元年(一〇九六)M8.4東海沖地震。東大寺の鐘落つ。伊勢・駿河

余丈の地割れを生ず。

天武十三年(六八四)推定マグニチュード8.4(以下Mとする)

南海地震。東海・南海・西海道大被害。「津波、土佐田苑

五十万頃海となる」頃とは面積の単位で五十万頃は約十二

K.mである。

大宝元年(七〇二)M7.0「舞

鶴沖の風海郷没し、山頂残り

二つ島となるという」

七一五年から八五〇年の間に八回M7.0以上の地震が発生している。

平安時代の貞観十一年(八六九)M8.6三陸沖。

城廓・倉庫・門類れ倒壊

多く、津波、溺死約千。

仁和元年(八八七)M8.6、京都で家屋倒壊

多く、圧死多数。津波、南海道を襲い、溺死多数。

永長元年(一〇九六)M8.4東海沖地震。東大寺の鐘落つ。伊勢・駿河

に津波、家屋流失四千余(駿河)

康和元年(一〇九六)M8.0南海沖地震。京都に被害。土佐の田百余町海に没す。

康安元年(一一三六)M8.4京都・奈良・大阪・紀伊の堂塔。

土佐・阿波・摂津に津波。由岐(阿波)で流失一七〇〇戸、流死六〇余。

明応七年(一四九八)M8.6東海沖地震。房総・紀伊間に津波による死二万余？

慶長元年(一五九六)M6.9別府高崎山崩れ、湾内に津波。

慶長九年(一六〇四)M7.9二元地震。犬吠岬、九州沿岸に津波。特に伊豆・紀伊・阿波・土佐に大津波被害大。

慶長十六年(一六一一)M8.1三陸沖。津波被害大。死五千余？震域極めて広く・震源地に關し、「現代的解釈困難」と大辞典に記されている。

元禄一六年(一七〇三)M8.2房総沖。元禄地震。小田原領で潰家寺社八千余。死二千三百余、江戸並びに

房総半島南部で大被害。津波、房総、伊豆を襲う。房総南端約五メートル隆起。

宝永四年(一七〇七)M8.4我国最大の地震。家屋倒壊駿河から土佐に及ぶ。津波は伊豆、九州間を襲う。とくに土佐の津波被害甚し。死二万余、流・潰家蔵六万余。時代によって日本各地で巨大地震、津波がおこっている。



報 畫 災 震 東 關
第一編
EARTHQUAKE PICTORIAL EDITION
PART ONE
行發社聞新日毎阪大
PUBLISHED BY
THE OSAKA MAINICHI



上野公園に雲集した都民。(関東大震災)

第五九九回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メロ



北九州市 八幡西区

豊田 光子

日ごとわれを写して古りし鏡なりつひには一生の終の日を待つ鏡と共に過ぎた歳月を思う作者。上の句で思いは充分に伝わるので、(初夏の光を今は湛ふる)など鏡の実景を。

宗像市 土六

山本 静子

ニッコリと笑むがに椿咲きました黄のしべ多にまじる紅椿の開花を見た喜びがよく表れている。下の句の観察が良い。四句は順当に(多の黄のしべに)。

福津市 若木台

山崎 公俊

手に触れて学べと弥生の土器片は公開講座の卓上に満つ作者の心弾みが出た歌。土器片から弥生時代の人の思いが伝わってきそう。結句は(卓上にまるぶ)としたい。

うきは市 浮羽町

向 則正

媿負ひ避難を急ぐ消防員波に吞まれてはかなくなりぬと人を助けようとして自らも亡くなった方々の無念は計り知れない。作者も悔しくてならないのだ。二句は過去形急ぎしに。

福津市 中央

池浦千鶴子

マンシヨンの日陰に立ちて体調の良し悪しを告げ友と別かれき友人と立ち話をし、体調を気遣い合う日常の一こまをさりと詠んだ一首。四句は(良し悪し告げ合い)としたい。

福津市 星ヶ丘

佐々木和彦

ながながと震災の特集見たる眼に点灯すなり麓のあかり震災の後、特集番組を辛いのに見ずにいられなかつた作者。四句を(沁みること見ゆ)としたい。灯の下には人の暮らしがある。

宗像市 田久

巻 桔梗

シャボン玉空をゆがめつと子ら言へり、歪むるはでもいつも戦さ作者の主張に賛成。上の句を、括弧を使い子供らしい言葉にできたら、結句の口語がより自然な感じになるのでは。

宗像市 池田

森 龍子

竹の子はするする伸びて親竹の落葉の湿りに初夏の風吹く評さわやかな一首。落ち葉の湿りに注目する細やかさが良い。

宗像市 東旭ヶ丘

天野 玲子

城あとの石垣うつす掘割の水はキラキラ光を返す評夏の光が印象的に詠まれている。写る石垣ではなく水を捉えたところが作者らしさか。

宗像市 日の里

大和美由紀

桜咲く寺に法螺貝鳴りひびき大護摩焚きの煙があがる評景の大きな歌。どこかに焦点がほしいので煙の色入れて黒煙、白煙などとしてみては。

北九州市 戸畑区

田中ハツセ

夜の床暑さに今宵も汗をかき去年の暑さが思ひ出さるる暑さに眠れない作者。「暑さ」が繰り返されるので上の句を(夜の床に今宵も汗をかき覚む)と。

福岡市 南区

加野シノブ

東日本大災害の國難に息子も行くと医療派遣へ医療派遣で被災地に行く息子さんに出征兵士などを連想した作者か。「國難」にそんな緊張した気持ち表れている。

福津市 若木台

野間 精一

赤名峠のぼりくだりにわれは見つ今さかりなる霧の中の藤霧の中の藤が美しく詠まれ、赤名峠の固有名詞も効いている。二句の登り・下りをどちらか一つに決めると印象が更に鮮明に。

選者詠

電柱のあまた立つ町あるきぬし夢のさびしさ一日つづく水界をいできて殻をうしなひし貝の蛞蝓生きるは捨て身

第五七四回

俳句作品集

宗像市 日の里

花田 いつ枝

編集後記

先日、鹿児島県に行つた際、西郷隆盛公を祀る南洲神社を参拝しました。境内に「四方学舎」という看板を目にし、後日調べると、鹿児島県伝統的教育制度である郷中教育の精神を受け継いでいる民間の団体でした。郷中教育の郷中とは、今でいう町内会クラスで地域の小単位であり、地域ごとに異年齢の者が同じ場所であり、に心身を鍛練し、その中で廉恥、長幼の序、弱者への労り、互譲互助の精神等、武士として必要な事を自然と身に付ける場所でした。イギリスで始まったボーイスカウトに似ているかもしれません。幕末、薩摩藩は西郷隆盛・大久保利通等多くの人材を輩出しましたが、皆この郷中教育で育ちました。これに対し我が国における戦後教育の現場では、個人を重視する傾向が強く、その結果、学級崩壊、モンスターペアレントという言葉に象徴されるように教育現場は混乱しています。公の精神を育む場所は、皆無と言って良いのかもしれない。『稽古照々』過去から学ぶものはたくさんあります。(松)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 〒八一一一三五〇五

福岡県宗像市田島三三三

電話 (〇九四〇六二一三三二) (代)

発行人 葦津幹之

編集人 大塚宗延・松林拓

制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円